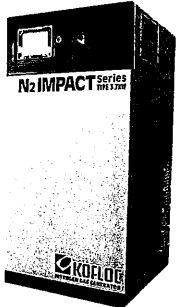


コフロック

半導体のフォロワーの風受け業績回復、デザイン一新の小型PSA発売

08年後半からのリーマンショックの影響を受け、厳しい経営環境だったコフロック（京都府京田辺市、小島眞理子社長）だが、09～10年に経営・営業体制を見直し、事業体系を再構築したことから業績を回復し、折からの半導体市況回復によりMFCなど流量制御機器の出荷が好調で、10年度は黒字転換した。予定していたPSA新製品も4月より販売を開始。小島眞理子社長は業績回復について「従業員全員の協力と理解を得て、一昨年から取り組んだオフイスの移転、販管費見直し等による固定費の削減効果が出た。加えて、半導体業界好調の後押しを得て第37期の業績は増収増益、黒字転換を果たすことができた」と述べている。



コンプレッサー一体型窒素ガス発生装置「N2IMPACT」

新製品は昨年の展示会に試作モデルを発表していたコンプレッサー一体型窒素ガス発生装置で、製品名「N₂IMPACT」^{CT}として完成し、4月中旬に関西地区の食品メーカーへ複数台納入するのを皮切りに販売開始する。まず、出力3.7kW（装置寸法…780×840×1590mm、発生量2N≡8.6Nm³/h、4N≡4.1Nm³/h）を発売し、続けて2.2～7.5kWの4機種を今年中に順次発売していく。同クラスの機種としては国内最小のコンパクト設計としており、スクロールコンプレッサ採用により低騒音やメンテナンスサイクルの長期化を実現。タッチパネルでは分かりやすいアイコンデザインを採用し、多機能ながら操作方法が明解である。小型というメリットに加え、イメージチェンジしたデザイン・低騒音・新たな操作性で「ユースポイントに設置できる」をコンセプトに食品、理化学、材料加工（樹脂・金属）業界に向けて販売を強化、新規顧客の獲得をめざす。初年度は30台の販売を見込む。